

年 組 名前:

日下部署の山岳救助隊は、隊員が着用する活動着を作った。活動着を統一することで一体感を持って活動し、円滑な救助につなげたい考え。防水素材で山中でも目立つ水色を採用している。署によると、山岳救助隊は署地域課の署員を中心に構成し、13人が所属している。管内にある大菩薩峠や乾徳山などで発生した山岳遭難事故の現場で救助活動を行うほか、事故防止の啓発活動などに取り組んでいる。これまでは隊員それぞれが登山用のアウターを用意していたが、装備品の充実を図ろうと企画。

救助一丸そろいの活動着

日下部署「山中で目立つ(A)採用」



日下部署山岳救助隊が作った活動着
—山梨市三富徳和

本年度当初からデザインを考案し、7月に完成した。山岳救助隊を率いる藤巻友美地域課長は「防水素材なので隊員が安全に活動できる。そろいの活動着を着ることで隊員の間、意識を高め、団結して活動していきたい」と話している。(松本飛勇馬)

(2021年8月27日付 山梨日日新聞 22面)

問1 日下部署の山岳救助隊が、隊員の活動着を統一した目的は何ですか。

.....

問2 見出し(A)に入る色は何色ですか。正しいものに○を付け、その理由も書いてください。

「 」 赤色 「 」 黄色 「 」 水色 「 」 茶色

「理由」 →

問3 記事に出てくる大菩薩峠と乾徳山の標高を調べ、それぞれ何丸か書いてください。

・大菩薩峠 「 丸」 ・乾徳山 「 丸」